

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193300015		
法人名	(有)しましまハウス		
事業所名	しましまハウス河合		
所在地	岐阜県飛騨市河合町稲越491-2		
自己評価作成日	平成21年9月30日	評価結果市町村受理日	平成21年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2193300015&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2193300015&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成21年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①年に一度同法人のグループホーム3施設で普段は行けないところへの日帰りバス旅行を行っている。</p> <p>②合同運動会、演芸を楽しむ会、など地域の方や家族と一緒に過ごす機会を作っている。</p> <p>③日々の暮らしや生活リハビリの様子を写真にし掲示している。それを繰り返し見て話題にしたり、廊下での歩行練習誘導などに利用している。</p> <p>④生活リハビリに慣れ親しんでみえた山菜の処理や豆殻むきなどを取り入れている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>廃校の小学校校舎を有効に活用したグループホームであり、広い運動場・体育館・廊下・玄関・教室跡が、うまく活かしてある。地元で、学んだ場所、子育ての時期にかかわったり、地域の中心的存在であった建物を、「終の住処」として使用出来ることは、利用者にとっても微笑ましい環境である。同法人経営の3ホームで合同のイベントや外出支援を行い、日常生活にメリハリをつけて、ケアに活用している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく余生を過ごしていただきたい」「やりたいことをわがままととらえずサポートしたい」という理念の下、居心地の良い家庭的なホームを目指し日々取り組んでいる。	理念を理解しやすくした今年度の介護目標として、「自分の親を入れたいホームに、また、将来自分が入りたいホームを目指す」をあげて共有化し、日々ケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入しておりできる範囲での参加を行っている。ホームでのイベントの際には声かけを行い地域交流を図っている。	ホームの体育館や運動場は、今日でも公営施設の様子、防災訓練の拠点として、また、地域の各種行事に利用され、地域の一員としてつながりながら日常生活が営まれている。ホームのジャガイモ収穫祭やそうめん流しなどの行事には、中学校の先生等地域のボランティアの協力がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームのイベントに気軽な気持ちで参加訪問していただくことで認知症の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの状況の報告や情報交換で得た情報をサービスの向上に活かせるようにすることが課題である。	サービスの状況報告や3ホームの合同運動会の企画、イベントへのボランティア等の協力依頼、運営推進会議に参加した家族から、身体拘束について意見が出され、ケアに活かす事例があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所者の状況報告をしたり相談に乗っていただきながら積極的に協力関係を築けるよう常に意識し取り組んでいる。	市の担当者とは関係づくりを大切にしながら、積極的に利用者の状況報告を行い、相談に乗ってもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い職員同士の意見交換を行い、拘束をしないケアに取り組んではいるが入所者の危険を防ぐために対処法として家族の了承・書面作成にて一時的に拘束を行うこともある。	身体拘束しないケアについては、学習会を何度も行い正しく理解しているが、夜間1人体制の介護となる場合は、利用者を安全にケア出来るように、家族に了解を得て、一時的な拘束を行い、書面を作成し、記録している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を通して虐待防止について学び職員間の情報交換において見過ごしを防いでいる。		

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部内部研修時に触れたが、職員全員の理解とまではいってなく勉強会を開いたりして学ぶ機会を設け取り組んで行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一部料金改定時には本社より再契約確認をしている。新規契約時には個々の消耗品の支払い方法等説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やご家族や入所者の方の意見、気持ちや思いを大切にしながら職員のミーティングでの話し合いによりケアに活かすよう努めている。	家族の面会時や日常の会話の中から、意見や要望を引き出したり、運営推進会議に家族も参加し、出された意見を運営に反映している。職員はほとんど地元出身で、利用者や家族が気兼ねなく意見を言える関係をつくっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやミニミーティングにより職員の思いや考え、意見の交換をし改善すべき点は早急に話し合っている。	職員は朝のカンファレンスやミーティング時に意見や日頃の思いを話し合い、3ホームの合同会議に要望や意見を吸い上げて検討し、運営に反映させ、より良いケアに結び付けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休日に配慮している。個別の聞き取りも行い随時に把握にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順次研修に参加したり資格取得に対しても応援体制にあり職員も意欲的である。又内部研修にも取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ協議会、ケアマネ会議などで交流を図っている。同法人内では交流を図っているが、他施設とは行っていないので今後は交流の機会を設けたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望にできるだけ応え思いや、不安を受け止め気持ちが安らぐような対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を可能な限り取り入れ、思いのずれがない信頼できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と相談の上で場面に応じてアドバイスや紹介できるような対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者の得意分野を生かして共に学び支え合う関係づくりに努めたい。また、もう少し個々の入所者と関わりを深めていけたらよいと思える部分もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には日頃の様子を伝えたり、記録を見ていただいたりして共に支える関係を築くように努めている。又、ケースによっては本人の思いや訴えをFAXを利用し随時に伝え家族とホームとで本人を支えるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	場所的に交通手段として車が不可欠であり訪問して頂くことは歓迎しているが難しい面もある。しかしホーム行事、イベントなどに地域の方が大勢着てくださると馴染みの方との交流の機会となっている。	ホームの行事やイベントには地元の人も多く参加して馴染みの人と交流が図られている。ジャガイモ収穫祭には中学の先生の協力、演劇会には馴染みの人の参加、近隣からの野菜の差し入れ、校庭のすぐ上の神社に参拝する地元の人との会話などがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが得意な事で関わり合ったり協力できるような支援はしているが、まだ支援できる要素があると考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでの暮らしぶりなどの情報を伝え住み替えが必要になった時でも、その日から本人が戸惑わないケアの継続が受けられるよう支援している。又いつでも相談していただけのようにつながりを大切にした関係づくりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り家族からの聞き取りを行う取り組みをしている。その人らしさを大切に生い立ちなどからも考慮し個人の気持ちを尊重している。	センター方式の一部を活用し、家族や利用者との日頃の会話を大切に、意向の把握に努めてケアに役立てている。畑づくりの好きな利用者には野菜作り、新聞関係の利用者にはホームの発行する通信の企画の協力依頼など、一人ひとりの個性を尊重しながら、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの聞き取りを行っている。入所後も会話の中より聞きとりケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日介護記録を残すことで職員間の情報を共有し、入所者の一日を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族と話したり、モニタリング、主治医や担当医の意見などを反映させ介護計画作成に当たっている。	月に1回、職員全員でモニタリングをしている。かかりつけ医とはFAXで連絡して、家族や利用者の意向や思いを聞き、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングやミニミーティングを行うことにより記録や実践から気づいたこと、工夫すること等話し合いケアに活かし介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の立地条件や環境により十分対応できない面もあるが希望時は散歩を個別に行ったり買い物代行、誕生会には本人の希望のメニューに応えたり、家族との食事外出を設定したりと取り組んでいる。		

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアによるイベントに全員で掃除、準備などに取り組み盛り上げている。地域のバラ園、流しそうめんに出かけ暮らしを楽しみ又、地域の方にも理解を深めていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前にかかりつけ医を確認し把握をしている。ホームでは隔週で提携医の往診も行っている。又法人代表が歯科医であるため歯科受診必要等把握しそれぞれのかかりつけ歯科医へつないでいる。	ホームでは、2週間に1回、利用者全員が診察を受けて健康管理がされている。専門医への受診が必要な時にはかかりつけ医からの紹介を受けて、受診している。歯科の受診もかかりつけ医と連携を取りながら、治療している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場には看護師が勤務しており状況により相談・指示を得ながらケアに当たっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は面会を行い状態把握につとめている。必要に応じ看護師等より情報を得たり地域連携室との関係ももち関係づくりにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所内でできること出来ないことを事前に家族に説明し家族の意向を確認しながら対応できるようにしている。看取りについては勉強会をしたりし理解を深めたい。	法人において医師や看護師も確保されているため、重要事項説明では重度化や終末期の看取りについて出来ると記してあるが、今は職員間で検討中である。外部から講師を招いて研修会を行う等学習を重ねている段階である。	職員間で不安のないよう重度化や終末期に向けた対応や看取りについて、段階的に家族への説明を行い、家族の協力や了解を得て、対応マニュアルを検討されたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	冷静に対応できるようにデータベースを整えたり備えている。個別の要望にも職員間で確認し備えているが、応急手当や初期対応について訓練や実践力はもっと身につけたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入所者全員と職員とで勉強会を行ったり市町村の防災訓練に合わせ避難訓練を行っている。近隣の方には特に協力をお願いし受けていただいている。今後はさらなる備えや訓練を計画して行きたい。	ホーム建物が災害時における地域の避難場所となっている。地域の人を交えた避難訓練や利用者を交えた災害時避難の学習会も行われている。冬季の停電時に備えた石油ストーブやマッチも常備してある。	夜間の災害を想定した避難訓練も計画されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	資格取得の中で学習したり、内部研修で意識を高めたりミーティングにて言葉使いや対応について話し合ったりしている。まだまだ十分出来ていない面もあり今後も職員間で意識を高める必要がある。	個人情報の取り扱いや考え方、利用者の尊厳に対する配慮はきちんとされ、適切である。トイレ誘導時は利用者にやさしく、飛騨弁で温かみのある排せつ介助がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活のいろいろな場面で自己決定できるよう取り組んでいる。職員の思いを押しつけないよう気をつけているがもっと出来る場面もあるのではないかとと思われる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや体調に合わせた生活に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は排泄行動がしやすいことに配慮しながら本人らしさを大切にしている。日々の身だしなみに配慮しながら化粧品やシェーバー等普段使用している品を持ち込んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日のメニュー書き、食事づくりの一部、テーブル拭き、下膳分担、食器洗い等個々の力を活かしながら職員と一緒に取り組んでいる。	メニュー書きは得意な利用者が行っている。地元でとれた茸や山菜・蕪等季節の食材を使い、調理されている。食堂の壁には、職員や利用者の絵手紙が展示してあり、穏やかな雰囲気の中で楽しい会話が弾んでいる。誕生日には希望の献立を用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士が立てた献立を使用し、カロリーバランスはとれている。入浴後の体重測定で個人の栄養状態把握をしている。とろみの使用やきざみ食、おかゆで対応している。10時・3時にはおやつと共に水分摂取を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝の洗面時、毎食後はみがきを行い、一人ひとりの能力に応じ見守り、手順言葉かけ等行い実施継続している。		

岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに合わせたトイレへの声掛けや誘導を行ったり夜間の誘導を試みたりすることでパット類の使用量を減らせるよう工夫している。	排泄の自立に向けて、一人ひとりにあった声かけを行い、排せつの失敗をできるかぎり少なくして、利用者のプライドを傷つけないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂っていただいたり食事の工夫、体操、歩行練習で体を動かす等を行いそれでも解消できない場合服薬にて調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯等希望どうりには合わすことはできていないが、入浴の際に入所者の方が楽しんで入浴できるようにしている。	大きな浴槽はゆったりと入浴を楽しむことができる。学校時代のそのままの浴槽を利用しているために、利用者によっては、不安定な姿勢になり、不安を伴っている。	入浴介助時の職員の腰痛や利用者の不安定な姿勢からくる危険のリスクを少なくし、楽しみが一段と増すような浴槽や浴室の改造・工夫が期待される。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時は居室で休んでいただいたり夜間もホールで会話をされ安心される方にはそのように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み忘れや間違いのないように工夫したり体調変化時は記録し頓服使用につないだり受診時の報告に活かせるようにしている。薬について不明な点は看護師に聴いたりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力を活かし裁縫、畑仕事、山菜処理、行事の計画、誕生会・歓迎会の時の祝いの歌等それぞれの記憶や力を最大限活かして頂きその人らしく暮らせる様に支援しているがまだまだ出来ることがあると思われる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時は外気浴や畑を見回ったり戸外に出ただけの様になっている。可能な場合近くを散歩し地域の方との交流もしている。地域へ出かけてもいる。個々には家族の協力を得て外出を計画したりしている。	山菜とりや近所のそうめん流しをしている公園に出かけたり、日々、出来るだけ戸外に出るようにしており、豊かな自然の中で、一人ひとりにあった外出支援をしている。3ホームで一緒に富山の水族館へ出かけたり、近くのバラ園に行く等楽しみを多く持てるような外出支援をしている。	



岐阜県 しましまハウス河合

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	5千円以内の額で本人が希望されれば持っていて安心してつないでいる。一部事業所管理のお金については入所時に説明し合意を得ている。その報告は毎月行い記録の冊子も面会時確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の状況に配慮しながら、電話、手紙も希望にこたえ対応している。FAXも利用し家族とのやり取りが継続できる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の下駄箱はそれぞれの方が希望された場所に名前をつけ混乱防止をしている。浴室、トイレ等大きな文字で見やすくしている。季節の花を飾ったり、季節の行事を行ったりしている。	娯楽室の一角に畳のコーナーを設け、仏壇が置かれ、日々、利用者が花を供えたり、念仏を唱えたりしている。玄関や娯楽室には季節の花が活けてある。池の周囲には小菊が植えられ、玄関には大輪の菊が咲いている。旧校舎が大きくて使いやすく、廊下を写真の展示用に利用する等、うまく生活の場に活用してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの席は入所者同士の関係も考慮しながら決めている。廊下のコーナーには椅子を置き気の合った方が会話を楽しんだり、ソファスペース、たたみスペースで気軽に休んだりできるよう整えている。玄関前にはベンチを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全には注意を払った上で、使い慣れたもの、大切なものを使用持ち込んで頂くようにして、本人が安心できる居室であるように努めている。	居室には手創りの表彰状が飾ってあり、大きな窓からは日差しが入り、外の景色が眺められ気持ちを和ませている。全居室にはエアコンがつけられ、窓は二重サッシとなっている。使い慣れたたんすや写真が持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りや声掛け誘導の徹底により入所者の方が現状維持できるようにサポートしている。必要以上の介助はなるべくしない。		